



この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2022年3月13日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部

「奇跡の少年」と呼ばれた苦悩

13日(日)=1、3面



迫る

東日本大震災で巨大津波に襲われた大川小学校（宮城県石巻市）で生き残った児童の一人、只野哲也さん＝写真＝は「奇跡の少年」と言われ、震災直後から多くのメディアに登場しました。当時は小学5年生。「友達の分まで頑張っている」

などと話してきましたが、2年ほど前からは一切、取材を断るようになりました。「奇跡の少年像」が独り歩きしているように感じたし、「自分は亡くなった友達に胸を張れるような人間なのか」という気持ちが抑えきれなくなったからでした。

でも「恩師」との再会、そして中学生の頃から行きたかった場所を仲間と訪れたことで、少しずつ内面が変化してきました。震災直後から大川小の取材を続けている記者に、抱えてきた苦悩を明かしました。

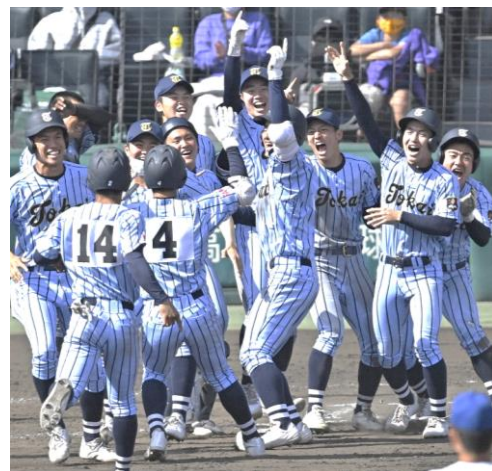
北京冬季パラリンピック閉幕

15日(火)=運動面など



障害者スポーツの祭典「北京冬季パラリンピック」は13日に閉幕します。ロシアのウクライナ侵攻が続く戦時下での異例の大会となりました。ウクライナの選手たちは母国に残る家族や友人の安全を祈りながらの出場となりました＝写真。国連総会で採択されたオリンピック・パラリンピック

期間中の休戦決議を破ったロシアや、ロシアの侵攻に協力的なベラルーシの選手たちは出場が認められませんでした。10日間の大会中、平和を願う選手たちはどんなメッセージを世界に発信したのでしょうか。日本選手団の活躍と含めて、振り返ります。



特集ワイド

れいわ新選組 山本太郎代表 野党共闘に「期待しない」

14日(月)=夕刊特集ワイド



れいわ新選組の結党から約3年がたちました。2021年秋の衆院選では、政党要件の一つである「国会議員5人以上」の集団になりました。今夏の参院選では再び野党共闘で臨むのでしょうか。

自身も衆院議員として再出発した山本太郎代表(47)＝写真＝は野党共闘について「期待はしてない」と話しています。その思うところは何なのか、じっくり話を聞きました。

第94回選抜高校野球大会（毎日新聞社、日本高校野球連盟主催）が18日、兵庫県西宮市の阪神甲子園球場で開幕します。開幕カードは浦和学院（埼玉）と21世紀枠の大分舞鶴の対戦で、13日間（準々決勝と準決勝翌日の休養日を含む）の熱戦がスタートします。初日から北海道王者のクラーク

第93回大会で優勝を決め、喜び合う東海大相模の選手たち。阪神甲子園球場で2021年4月1日、津村豊和撮影



センバツ開幕詳報

19日(土)1面、運動面など

記念国際と、九州チャンピオンの九州国際大付（福岡）がぶつかると、倉敷工（岡山）の福島貴太主将が選手宣誓する開会式の模様と合わせて詳報します。

竹橋の窓から

編集後記

ロシアのウクライナ侵攻を受け、毎日新聞は10日、TBSラジオ「荻上チキ・Session」と共同で、参加費がウクライナ難民への寄付になるオンラインイベントを開きました。タイトルは「私たちに今できることは」。急ぎよ開催したにもかかわらず900人以上が参加してください、平和を願い、「できることをする。それは微力かもしれないけど、無力とは違う」と動く方が大勢いるのだと改めて感じさせられました。

（山本有紀）

新毎日

150
2022年2月21日
毎日新聞創刊150年